

館内企画展2011年度

平和祈念展示資料館

2011年度

2012年1月26日 企画展『抑留生活を支えた品々』
平成24年1月31日（火）～3月11日（日）
平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



2011年11月27日 企画展『シベリアと満州－引き裂かれた家族の肖像』
平成23年11月29日（火）～平成24年1月29日（日）企画展示コーナー

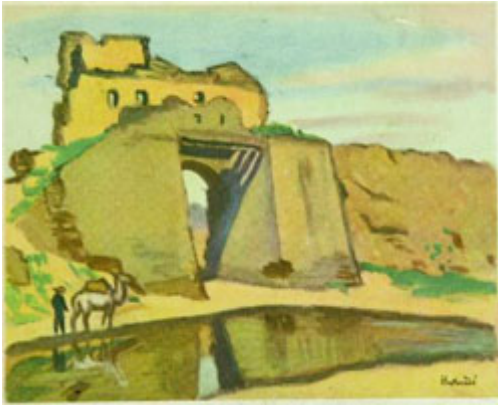
2011年10月25日 企画展『従軍カメラマン小柳次一写真展』開催のお知らせ。
平成23年9月27日（火）～11月27日（日）企画展示コーナー

2011年8月19日 企画展『マンガで綴る戦争 斎藤邦雄の世界』
平成23年8月23日（火）～9月25日（日）企画展示コーナー

2011年5月27日 企画展『写真の記憶：残された満州の姿』
ギャラリートーク開催日決定
平成23年6月5日（日）・19日（日）開催
各日午後2時30分より行います。ご参加ください。

2011年5月24日 企画展『写真の記憶：残された満州の姿』開催のお知らせ
平成23年5月31日（火）～7月10日（日）開催

2011年4月4日 企画展『絵葉書に見る戦争の諸相』
4月5日（火）～5月29日（日）開催



原画 石井柏亭《大同府西門》

株式会社光村原色版印刷所印行

第二次世界大戦終結以前には、著名な画家たちの作品の多くが、戦地と日本を結んだ軍事郵便絵葉書の原画として使われました。

近代日本における絵葉書の歴史は、明治33（1900）年に施行された郵便法で私製葉書の使用が認められたことに始まります。明治37（1904）年に勃発した日露戦争の戦役記念葉書の爆発的な売れ行きなどを契機に、各地でブームが起こり、官製および私製を問わず、大量の絵はがきが日本中にあふれました。

当資料館では、こうした絵葉書のうち、戦地から日本へ、あるいは日本から戦地へ送られることを目的に作られた軍事郵便葉書をはじめとした、多くの絵葉書を所蔵しています。今回の企画展では、当資料館所蔵の絵葉書の中から、第二次世界大戦終結以前のものを中心に約70点を展示します。人々の思いを託され戦地と故郷をつないだもの、戦地での兵士の生活を伝えたもの、軍隊生活を漫画にしたものなど、当時の絵葉書の多様さとともに、そこに反映された世相や人々の思いをご紹介します。

- 会 期 平成23年4月5日（火）～平成23年5月29日（日）
- 会 場 平和祈念展示資料館 企画展示コーナー
- 入館料金 無料



⬇ あじあ号、新京ニテ

- 平成23年5月31日（火）～7月10日（日）
- 企画展示コーナー

》ギャラリートーク開催《

展示を担当した学芸員によるギャラリートーク（展示解説）を行います。

展示資料にまつわるエピソードもあわせて解説しますので、ご参加ください。

- 6月5日（日）・19日（日）
- 各日午後2時30分～

昭和20（1945）年8月9日、ソ連軍の突然の侵攻を皮切りに、満州（現・中国東北部）に暮らしていた日本人はさまざまな困難に見舞われます。

昭和7（1932）年の建国以来、慢性的な不況にあえぐ日本の「新天地」として、多くの日本人が移住、終戦直前には155万人が暮らした。世界水準を目標に開発された満鉄の特急「あじあ号」など、満州発展の姿を写真資料で紹介します。



⬇ 大連市沙河口満鉄鉄道工場 組立工場



⬇ ハルピン停車場



NEW
東部国境 東寧付近
復旧作業ト軽便ノ運転



NEW
我連隊 精鋭 装甲列車



NEW
軽装甲列車（五〇一）



馬がタマ除けとなる

戦友を凍土に葬る

手作りスプーン

大正9（1920）年、群馬県に生まれた漫画家・斎藤邦雄。昭和16（1941）年に召集され、中国大陸へ渡り、満州（現・中国東北部）で終戦を迎えます。シベリアへ強制連行され、酷寒の中、辛い労働を強いられました。帰国後、自身の体験をもとに多くのマンガやエッセイを発表されました。当資料館所蔵の資料とともに、兵士・戦後強制抑留者の労苦を紹介する企画展が後期日程になり、14作品が新たに展示されます。

■会期

平成23年8月23日（火）～9月25日（日）

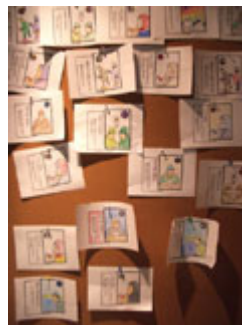
■会場

企画展示コーナー



▲前期日程でも好評だった「シベリア強制抑留いろはかるた」

スペシャルイベント開催



ぬり絵で彩る
平和への願い

斎藤邦雄さんのマンガをぬり絵で楽しめます。できあがったぬり絵は当資料館に掲示します。完成作品を受付で見せると記念品がもらえます。

■9月25日（日）まで毎日

ギャラリートーク

当資料館学芸員による展示解説を行います。企画展の見どころや資料にまつわるエピソードを紹介します。

■8月27日（土）、9月10日（土）

各日午後3時から30分程度

企画展『従軍カメラマン小柳次一写真展』開催のお知らせ。



平和祈念展示資料館(総務省委託) 入館無料
新宿住友ビル48階 東京都新宿区西新宿2-8-1 TEL: 03-5323-8709 <http://www.heiwa-kenen.jp>

写真家・小柳次一さんは、約8年間、陸軍報道部の嘱託および軍属として、国内の特攻基地や中国各地、フィリピン、千島列島などで撮影しました。その多くは陸軍報道部の刊行物に掲載されました。軍に提出したネガやプリントは、終戦直後に破棄または焼却処分されましたが、小柳さんが自宅で保管していたために焼却をまぬがれた写真もあります。その一部を紹介します。

開催期間

平成23年9月27日(火)～11月27日(日)

プロフィール

明治40(1907)年、福岡県生まれ。東京学芸通信社、写真通信社などの写真部を経て、昭和12(1937)年、名取洋之助の日本工房に入社。同社から上海派遣軍特務部報道班の嘱託となり、上海に赴任。以後、終戦まで陸軍専属のカメラマンとして撮影を続ける。戦後は『週刊サンニユース』やINP通信などで報道カメラマンとして活躍。平成6(1994)年8月3日、引退先の宮崎にて死去。享年87歳。

関連イベント開催

講演会「写真から見た日中戦争(仮題)」

軍事史研究家で、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」で陸軍軍事考証を担当する原剛氏が講演します。

講演会終了後、資料館にて企画展に関連した特別解説があります。

■11月12日(土) 開演午後2時(開場午後1時30分)

■会場：新宿住友ビル47階スカイルーム

■参加無料：先着60名

当日午前12時より資料館受付にて整理券を発行

お話し会「戦争体験者の証言を聞く」

小柳次一氏の写真を見ながら、中国戦線に従軍された元兵士の細木善一さんが、その体験を語ります。

■10月8日(土) 午後2時

■会場：ビデオシアター

■参加無料：先着40名

ギャラリートーク

当資料館学芸員による展示解説を行います。企画展の見どころや資料にまつわるエピソードを紹介します。

■10月1日(土)、10月22日(土)、

11月5日(土)、11月19日(土)

各日午後3時から30分程度

企画展『シベリアと満州－引き裂かれた家族の肖像』

平成23年11月29日（火）～平成24年1月29日（日）

※休館日：平成23年12月28日（水）～平成24年1月4日（水）



今回の企画展では、第二次世界大戦後、シベリアと満州（現・中国東北部）に引き裂かれたある家族について取り上げます。終戦直前に離れ離れになった彼らが再会できたのは、三年後の日本でした。実物資料をもとに、シベリア抑留・満州からの引揚げを経験した一家族の労苦と絆を紹介します。

主な展示資料

抑留中に父親が使った水筒
引揚げ時に母親が背負ったリュックサック
俘虜用郵便葉書
引揚証明書



引揚げ時に母親が背負った
リュックサック



娘のために母親がぬった
リュックサック



今回スポットをあてた家族の母娘の引揚げ体験を綴った絵本「おもいでのリュック」

満州（現・中国東北部）からの引揚げを絵本にしました。厳しい環境における母の強さと愛がつまった作品です。今回の企画展では、この絵本をパネルにし、掲示します。

～プレイベント：特別講演会「引揚げと舞鶴港」～

舞鶴引揚げ記念館の宮本光彦館長による特別講演会を行います。

11月27日（日）午後2時～ 資料館「ビデオシアター」

※予約不要 先着40名

～ギャラリートーク～

当資料館学芸員が、企画展の見どころや展示資料にまつわるエピソードを紹介します。

12月3日（土）・17日（土）、1月14日（土） いずれも午後3時～

※予約不要

～講演会「引揚げと抑留－母と父の引揚げ体験」～

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館助教の加藤聖文氏による講演会を行います。

12月4日（日） 午後2時～ 新宿住友ビル47階「スカイルーム」

※予約不要 但し、先着60名 午前12時から資料館受付で整理券配布

企画展『抑留生活を支えた品々』

-見て、さわって、知るダモイへの想い-

今回の企画展では、一部の展示品にさわることができます。
また、点字による解説も設けています。“見て”、“さわって”、戦後強制抑留者たちの労苦について、理解を深めて頂ければ幸いです。

日 時 平成24年1月31日（火）～3月11日（日）
開催時間:午前9時30分～午後5時30分（入館午後5時まで）
休館日:2月5日（日）

会 場 平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



昭和20（1945）年8月15日に終戦を迎えたにもかかわらず、約57万5千人の日本人がシベリア各地に抑留され、強制労働に従事させられました。

酷寒、飢え、過酷な労働の中、収容所での生活に潤いを与え、生きる気力を明日へと繋ぐために、多くの抑留者たちがスプーンをはじめとする食器類や煙草入れ、麻雀の牌、将棋の駒などを作りました。道具もない中で、知恵と工夫を凝らした生活道具を通して、どんなに困難な状況に置かれても決して消えることのなかったダモイ※への強い想いを紹介します。

※「ダモイ」とは、「帰る」「帰国」「帰還」などを意味するロシア語で、抑留者たちがよく口にしていた言葉です。

■■ギャラリートーク■■

当資料館学芸員が展示の解説を行います。

ギャラリートーク時に限り、学芸員の立会いのもと、貴重な実物資料にさわって鑑賞する特別プログラムがあります。

日時：2月4日（土）、19日（日）、3月3日（土）午後3時～午後3時30分

会場：平和祈念展示資料館 企画展示コーナー



関豊《ノルマに追われて》 油彩 キャンバス



木製スプーン

資料提供者である我妻きみ子氏の夫、助廣氏が、カラカンダ99地区第11収容処分所（カザフスタン共和国）に抑留中、バラの木で作成した手製のスプーン。

我妻きみ子氏 提供



真鍮製マホルカ入れ

シベリアのアムール州ザビタヤの病院に入院中、友人からもらった手製の煙草入れ。

鎌本勝也氏 提供



アルミ製スプーン

労働に従事させられた工場の廃品置き場でアルミ線を拾い、ペチカ(暖炉)で溶かして、石で削って作成した手製のスプーン。

徳永京治氏 提供



木製パイプ

白樺の木と葉きょうで作成した手製のパイプ。

高井英一氏 提供



スプーン

昭和22年6月にダモイするまで隠し持っていた手製のスプーン。

斉藤光治氏 提供

戦争体験の記憶を次の世代へ—わたしが語り継ぐために—

平和祈念展示資料館では、夏休みにあわせ、戦争体験の労苦を語り継ぐためのイベントを実施します。トークイベント、声優さんの読み語り、紙芝居、語り部お話し会、アニメや映画の上映会、ミニコンサート、ワークショップなどに参加して、体験して、考えてみませんか。...

[詳細はこちら](#)